

日本画家・平良優季によって展開される幻想世界。そこには沖縄に育まれた植物や蝶、あるいは女性が描かれている。季節によって葉の色が変化する植物クロトン。南国らしさ溢れる、くっきりとした模様が特徴の蝶リュウキュウアサギマダラ……。沖縄に生まれ育った彼女にとって自然は、昔から身近な存在だった。いつか枯れてしまふであろう花々の、最も美しい瞬間を描き留めたい。それが平良が植物をテーマに作品を制作するようになった理由である。それまでは薔薇や牡丹など、育つ地域を限定しない花を描いていた彼女だが、ある公募展に作品が入選し、東京の会場で展示された自身の作品を観て、他の作品との違いに気付いたという。それは、沖縄ならではの鮮やかな色、つまり沖縄

で培われた色彩感覚。平良は、それを上手く引き出せるのは、生まれ育った沖縄の植物を描くことだという考えに至った。それから彼女は沖縄の植物を、艶やかで美しい色彩で描くようになったのである。

平良は、散歩中に浮かんだイメージや夢で見た風景などを描き留めて画面に起こし、自身が感じる植物のささやかな変化を取り入れながら描くという。植物や蝶などの生き物に見られる小さな変化から感じ取れる季節の移ろい。目には見えない空気感。自然の美しさ、そして儚さ。平良が表現する幻想的な世界は現実なのか、夢なのか？ 観る者がそんな感覚を覚えるような独特な空間が、沖縄という環境によって培われた平良の色彩感覚と相俟って、私たちが未知の世界へと誘う。



(nocturne) 岩絵具 箔 高知麻紙 寒冷紗 / 162.0 x 130.3 cm / 2017 年

沖縄に育まれた植物を、  
沖縄で培われた色彩で表現する。

日本  
画家

平良優季



(春を待つ) 岩絵具 箔 高知麻紙 寒冷紗 / 45.5 x 53.0 cm / 2015 年